

## 審議会等会議録

|            |   |
|------------|---|
| 審議会等の名称    | 山口市湯田温泉配給委員会  |
| 開催日時       | 令和 7 年 3 月 1 2 日（水曜日） 1 5 : 0 0 ~ 1 5 : 3 0   |
| 開催場所       | 防長苑（山口市熊野町 4 番 2 9 号） 1 階 白鳳の間  |
| 公開・部分公開の区分 | 非公開   |
| 出席者        | 川村喜一郎委員、黒川裕希委員、梅林義彦委員、中村卓也委員、西村正伸委員、細田法孝委員、磯村浩之委員、増本好夫委員（8 名）   |
| 欠席者        | なし  |
| 事務局        | 岡村交流創造部長<br>（観光交流課）藤山課長、横田主幹<br>（説明者）湯田温泉配給協同組合 吉本専務理事<br>交流創造部湯田温泉パーク整備推進室 安永室長<br>（オブザーバー） 山口県山口環境保健所生活環境課 山縣課長   |
| 議題         | 温泉揚湯量その他について（報告）  |
| 内容         | 次第に基づき以下のとおり進められた。<br><br><開会><br>事務局より開会宣言<br><市長挨拶><br>市長挨拶（交流創造部長代読）<br><委員会成立宣言><br>事務局より、出席委員数が定足数に達していることによる委員会の成立の宣言<br><委員紹介、委員長及び副委員長の選出、委員長あいさつ><br>観光交流課長より委員紹介、委員長より挨拶<br><関係者紹介><br>事務局より、オブザーバーの紹介<br><議事の説明><br>事務局より、諮問事項はないため、議事は温泉の利用状況等の報告のみとすることを説明<br><委員会公開・非公開の確認><br>議事に入る前に、本委員会を非公開とすることで確認<br>また、昨年の委員会での個人情報の取り扱いについての意見を踏まえて、個人名称の入った「資料 5（各施設最大揚湯量一覧表）」は、会議終了後に回収することを説明<br><議事><br>以下、議事に入る。 |

<委員長>

報告事項について、湯田温泉配給協同組合吉本専務理事へ説明依頼

<配給協同組合説明>

○温泉の利用状況

資料に沿って、温泉揚湯量・使用量の状況報告、各施設の最大使用量の状況報告について次の点を補足して説明

**資料1**

現在、市有特1号、湯田温泉18号、19号、21号、22号、近藤1号の6つの泉源で運営をしている。

湯田温泉18号が毎分350ℓで、湯田温泉配給組合の一番の心臓部である。

昭和57年掘削の18号、昭和58年掘削の19号については、ケーシング（温泉をくみ上げる筒）が鉄製で錆が出ていたため、この度、FRPのケーシングに取り換えた。今後は、錆などの不純物をくみ上げる心配なく使用できる。

昨年の8月15日の落雷により、通信機能が焼けてしまい9月以降の記録が取れていない。専門業者と協議しながら、2月17、18日の2日間で改修工事を終え、3月からは揚湯量が記録できるようになった。

**資料2**

資料1と同様、昨年8月15日の落雷により9月から2月までの記録が取れていないが、各ポンプにおける汲み上げる量については、許可揚湯量の9割としていたので、各泉源の許可揚湯量を超えない状況での運転となっている。

**資料3**

資料1と同様、昨年8月15日の落雷により9月から2月までの記録が取れていない。

**資料4**

使用量については、各施設のメーターで積算をしているため、落雷の影響を受けず記録することができている。

3月は推定値ではあるが、ほぼ前年並みの使用量となっている。

湯田温泉配給組合には3つのタンクがあり、6つの泉源から常時お湯を溜めているが、曜日によりタンクレベルが一気に下がることもある。直近の実例として、昨年の1月4日に5メートルのタンクレベルが70センチまで落ちた。原因として、各施設が一斉にお湯を一気に抜いて、一気に入れるということがあると、瞬間的にタンクレベルが下がってしまう。この対応策について、今後考えていかなければならない。

**資料5**

梅乃屋については、大浴場を増設されたことにより、使用量が昨年度と比較して大きく増えている。セントコアはかけ流しにされたことから、使用量が増えている。一番使用量が多い古稀庵は、少し減少している。全体的には、宿泊人員が伸びてきていることに伴い使用量も増えてきている。

現時点では、許可揚湯量の中で賄えているが、湯田温泉こんこんパークのオープンを抑えており、また、翠山荘跡地の新しい施設や現在休館しているホテルニュータナカ、プラザホテル寿の跡地など、今後、新規施設やかけ流しを始められる施設の増加等があった場合、温泉がひっ迫することも考えられる。将来に向けて、許可揚湯量のアップや代替泉源の掘削など、今のうちから考えておく必要がある。

<委員長>

何か質問があるか。

<委員>

現在の状況で足りないということではなく、今後を見越して準備をする必要があるということか。

<配給協同組合>

夏場は全く問題なく、1日の許可揚湯量 約2000トンとしているが、約1200トンで推移している。冬場は、1800トンを超えた日が1日ほどあった。

○その他「湯田温泉こんこんパークについて」

資料に添って「湯田温泉パークこんこんパーク」について以下のとおり事務局より説明

- ・昨年度、公募により愛称が「湯田温泉こんこんパーク」に決定した。
- ・当初4月に供用開始することとしていたが、建築資材の調達困難により工期を延長し、本年6月の供用開始を予定している。
- ・湯田温泉パークの温浴施設は、施設北側の温浴棟に趣の異なる2つの浴室と貸切湯を2室、無料の外足湯を、施設南側の交流棟には有料の屋内足湯と飲泉・手湯を備え、滑らかな湯田温泉の泉質を様々な形で楽しんでいただける施設となっている。
- ・浴場は朝6時から営業することとしており、お気軽にご利用いただきたい。
- ・最大使用湯量は月1, 699m<sup>3</sup>を算定している。
- ・また、施設最大の特徴である約1, 000m<sup>2</sup>の全天候型の大屋根広場は、270インチの大型ディスプレイを備え、子供たちの遊び場や市民のくつろぎの場として、また、様々なイベントやパブリックビューイングの開催などを予定している。
- ・その他に、飲食施設や貸会議室も備えており、「あそびば」、「まなびば」、「たまりば」という活用コンセプトのもと、幅広い世代の市民、観光客に活用いただける施設となっている。

<委員長>

これについて、何か質問はあるか。

<委員>

今年の6月にオープンということで、来年の山口市配給委員会の資料5に施設名として記載されることになるということ、その数値が1, 699m<sup>3</sup>ということか。

|               |   |
|---------------|---|
|               | <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>月の最大使用湯量が1,699<sup>m</sup>となる。もともと湯田温泉こんこんパークの敷地には寿泉荘があり、月560<sup>m</sup>の使用湯量であったため、差し引きして純増部分は約1,100<sup>m</sup>となる。</p> <p>&lt;委員長&gt;</p> <p>他に質問、報告がなければ、審議終了とし、事務局にお返しする。</p> <p>本日の委員会を終了する</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>以上を持って山口市湯田温泉配給委員会を終了する。</p> <p>15時30分閉会</p> |
| <p>会議資料</p>   | <p>1 次第書</p> <p>2 委員名簿</p> <p>3 会議資料</p>  |
| <p>問い合わせ先</p> | <p>交流創造部 観光交流課</p> <p>電話 083-934-2757</p>   |